

官ノ所掌事項ニ關シテハ當該長官ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ且地方
行政協議會令第四條ニ規定スル其ノ他ノ官衙ノ長ノ所掌事項ニ關シ
テハ當該所管大臣ニ對シ其ノ官衙ノ長ニ必出ナル指示ヲ爲スベキコ
トヲ求ムルコトヲ得

前項ニ規定スル所關シテハ知府府縣長官ハ内閣總理大臣ノ指揮
監督ヲ承ク但シ知府府縣長官ニ對スル指揮ノ職權ニ關シテハ知府府縣
ノ一般行政ニ關スル指揮監督ノ例ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由

戦時下地方行政ノ重要性ニ對シ別途治安ノ地方行政協議會ヲ置カレタ
ル知府府縣ノ長官ヲシテ關係地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜合連絡調整
ニ任ゼシムルコトトシ之ガ此示權等ニ關シ規定ヲ設ケルノ要アルニ依
ル

參照

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ戰時行政職權特例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十八年三月十七日

内閣總理大臣	東條 英機
陸軍大臣	堀田 邦彥
文部大臣	橋本 良一
農林大臣	井野 碩哉
厚生大臣	小泉 親彦
司法大臣	岩村 通世
海軍大臣	嶋田繁太郎
逓信大臣	寺島 健
大藏大臣	賀屋 興宣
商工大臣	岸 信介
鐵道大臣	八田 嘉明
内務大臣	湯澤三千男
國務大臣	安藤紀三郎
外務大臣	各 臣之
大東亞大臣	青木 一男

勅令第三百二十三號

戰時行政職權特例

第一條 大東亞戰爭ニ際シ鐵鋼、石炭、輕金屬、糧食、航空機等軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條 大東亞戰爭ニ際シ前條ノ物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ勞務、資材、助力及資金ニ關スル各省大臣ノ職務ノ一部ヲ命ヲ承ケ内閣總理大臣自ラ行ヒ又ハ他ノ各省大臣ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第三條 大東亞戰爭ニ際シ第一條ノ物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外内閣總理大臣ハ勞務、資材、助力及資金ニ關スル一ノ行政官廳若ハ官吏ノ職務ヲ自ラ行ヒ又ハ他ノ行政官廳若ハ官吏ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第四條 前二條ノ場合ニ於テ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係行政官廳ノ職員ヲシテ臨時他ノ行政官廳ニ於テ職務ヲ爲スコトヲ得

ルコトヲ稱
 第五條 第二條又ハ第三條ノ場合ニ於テハ
 一ノ行政官廳又ハ官吏ノ職權ニ係ル罰則
 ノ適用ニ付テハ其ノ職權ヲ行フ他ノ行政
 官廳又ハ官吏ヘ之ヲ當該行政官廳又ハ官
 吏ト看做ス
 第六條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ内
 閣總理大臣之ヲ定ム
 附 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日本標準規格四例(十一行令)(山田精)

閣印第三一九號

起 案 昭和三十八年六月三十日 裁可 昭和 年 月 日 施行 昭和十八年七月三日 告示

内閣總理大臣

内閣書記官長

法制局長官

内閣

(印)

戰時行政職權特例第七條ノ規定ニ依リ各廳ガ地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜合連絡調整ニ關シ意見アル場合ノ措置ニ關シ別紙内閣告示案

通相定メラレ然ルベシ

案

内閣告示第十五號
戰時行政職權特例第七條ノ規定
ニ依リ左ノ通定ム

昭和八年七月三日

内閣總理大臣

各廳ハ地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜
合連絡調整ニ關シ意見アルトキハ
戰時行政職權特例第六條ニ規定ス

ル當該都廳府縣長官ニ對シ文
書ヲ以テ之ヲ提出スルコトヲ得

(參照)

戰時行政權特別法

第七條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ
內閣總理大臣之ヲ定ム

(内閣告示案)

戰時行政職權特例第七條ノ規定ニ依リ左ノ通定ム
各廳ハ地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜合連絡調整ニ關シ意見アルトキ
ハ戰時行政職權特例第六條ニ規定スル當該都廳府縣長官ニ對シ文書
ヲ以テ之ヲ提出スルコトヲ得

(勅令案)

勅令第 號

戰時行政職權特例中左ノ通改正ス

第六條ヲ第七條トス

第六條 地方行政協議會ヲ附置セラレタル都廳府縣ノ長官ハ關係
地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜合連絡調整ニ任ジ必要アルトキハ
廳府縣長官ノ所掌事項ニ關シテハ當該長官ニ對シ必要ナル指示
ヲ爲シ且地方行政協議會令第四條ニ規定スル其ノ他ノ官衙ノ長
ノ所掌事項ニ關シテハ當該所管大臣ニ對シ其ノ官衙ノ長ニ必要
ナル指示ヲ爲スベキコトヲ求ムルコトヲ得

大正天皇御紀
卷之六

大正天皇御紀
卷之六
第六

国立公文書館

分類

配架番号

2A
12
2676

前項ニ規定スル職權ニ關シテハ都廳府縣長官ハ内閣總理大臣ノ
指揮監督ヲ承ク但シ廳府縣長官ニ對スル指示ノ職權ニ關シテハ
都廳府縣ノ一般行政ニ關スル指揮監督ノ例ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

戦時下地方行政ノ重要性ニ鑑ミ別途起案ノ地方行政協議會ヲ置カ
レタル都廳府縣ノ長官ヲシテ關係地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜合
連絡調整ニ任ゼシムルコトトシ之ガ指示權等ニ關シ規定ヲ設ケル
ノ要アルニ依ル

戰時行政職權特例中左ノ通改正ス

第一條 大東亞戰爭ニ際シ鐵錫、石炭、輕金屬、船舶、航空機等重要軍需物資ノ生産擴充、主要食糧ノ確保、防空ノ徹底強化其ノ他綜合國力ノ擴充運用上特ニ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條及第三條中「及資金」ヲ「資金、食糧、施設及運輸」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年十月十一日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

遞信大臣

大藏大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

後藤國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

岸國務大臣

戰時行政職權特例中改正

件

昭和十八年十月十一日

起案上申ス依テ別紙ノ通閣議決定セラレ可然
ト認ム

追テ本件ハ樞密院官制第六條
第九號ノ勅令ナルヲ以テ樞密
院ニ御諮詢相成可然ト認ム

勅令案

別紙ノ通

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ戰時行政職權條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

國務各大臣

勅令第 號

戰時行政職權條例中左ノ通改正ス

第一條 大東亞戰爭ニ際シ鐵鋼、石炭、銅金屬、船舶、航空機等重要
軍需物資ノ生産擴充、主要食糧ノ確保、防空ノ徹底強化其ノ他綜合

内閣總理大臣ハ關係各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條及第三條中「及資金」ヲ「資金、食糧、施設及運輸」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

内閣總理大臣ノ指示權ヲ擴張シテ主要食糧ノ確保、防空ノ徹底強化其ノ他綜合國力ノ擴充運用上必要アル場合ニモ指示ヲ爲シ得ルコトトスルト共ニ行政官廳等ノ職權調整ニ關シ重要軍需物資ノ外主要食糧ノ増産ノ爲メニ必要アル場合ニモ之ヲ爲シ得ルコトトシ尙移動ヲ爲シ得ル職權ノ範圍ヲ擴充シテ食糧、施設及運輸ニ關スル職權ニ付テモ所要ノ移動ヲ爲シ得ルコトト爲スノ要アルニ依ル

戰時行政職權特例中改正ノ件
右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此段
及通牒候也

昭和十八年 十月三十一日

樞密院議長原 嘉道

內閣總理大臣東條英機 殿

臣等戰時行政職權特例中改正ノ件
諮詢ノ命ヲ恪ニ本月三十日ヲ以テ審議ヲ
盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月三十一日

樞密院議長 原嘉道

勅令

戰時行政職權特例中左ノ通改正ス

第一條 大東亞戰爭ニ際シ鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等重
 要軍需物資ノ生産擴充、主要食糧ノ確保、防空ノ徹底強化其ノ他
 綜合國力ノ擴充運用上特ニ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係各
 省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條及第三條中「及資金」ヲ「資金、食糧、施設及運輸」ニ改
 ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年十月十一日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

逓信大臣

大藏國務大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

復興國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

帝國國務大臣

地方行政機構整備強化ノ爲ニスル戰時行政職權特例外ニ勅令中改正ノ件

依テ別紙ノ通閣議決定セラレ可然

令案

整備強化ノ爲ニスル戦時行政職權特例外ニ勅令中改正
ニ之ヲ公布セシム

御 璽

年 月 日

内閣總理大臣
各省大臣

政職權特例中左ノ通改正ス

ヲ左ノ如ク改ム

一議會ヲ附置セラレタル都廳府縣ノ長官ハ關係地方ニ於

本件ハ行政機構整備
實施ノ爲ニスル諸勅令
ト同日公布相成度

法務局

内閣

ケル各般ノ行政ノ綜合連絡調整ニ任ジ必要アルトキハ地方行政協
議會令第四條ニ規定スル官衙ノ長ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコト
ヲ得

第七條ヲ第八條トス

第七條 内閣總理大臣又ハ各省大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ前條ノ都
廳府縣長官ヲシテ關係地方ニ係ル當該大臣ノ職權ノ一部ヲ行ハシ
ムルコトヲ得

第二條 地方參事官臨時設置制中左ノ通改正ス

題名ヲ左ノ如ク改ム

地方參事官等臨時設置制

第一條 地方行政協議會令並ニ戰時行政職權特例第六條及第七條ノ
規定ニ依リ地方長官ニ屬セシメタル職權ノ行使ニ關シ當該地方長
官ヲ助ケシムル爲メ地方參事官及地方副參事官ヲ置ク

第二條 第四項ヲ削ル

第三條 地方副參事官ハ專任二十人以内奏任トシ内務大臣ノ定ム
ル所ニ依リ前條第一項ノ都廳府縣ニ之ヲ配置ス

地方副參事官ハ當該地方長官及地方參事官ノ命ヲ承ケ第一條ニ規
定スル事務ヲ掌ル

地方副參事官ノ官等及俸給ハ高等官官等俸給令第十四條ニ掲グル諸
官ト同一トス

内

閣

第四條 地方參事官及地方副參事官ノ身分取扱ハ都廳府縣高等官ノ例ニ依ル

第五條 當該地方長官ハ地方行政協議會令第十

二條ニ規定スル職員ヲシテ戰時行政職權特例第六條及第七條ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬セシメタル職權ニ係ル事務ニ從事セシムルコトヲ得

第六條 當該地方長官ハ須要ニ應ジ地方參事官及地方副參事官ヲシテ臨時其ノ廳ノ事務ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 地方行政協議會令中左ノ通改正ス

第四條第二號中「税關長」ヲ削リ「海務局長」ヲ「海運局長」ニ

改ム

同條第三號中「當該地方ニ關係アル工務官事務所長、勞務官事務所長其ノ他ノ」ヲ「前二號ニ掲グルモノノ外當該地方ニ關係アル」ニ改ム

第十二條 協議會ニ關スル事務ニ從事セシムル爲當該都廳府縣ニ適シテ臨時ニ屬專任三十五人以内ヲ増置ス

前項ノ職員ノ各都廳府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

地方行政機構ノ整備強化ヲ圖ル爲地方行政協議會長タル地方長官ノ機能ヲ擴充シ特別地方官衙ノ長ニ對シテモ直接指示ヲ爲シ得ルコトトシ且當該地方長官ヲシテ内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ聯權ノ一部ヲ行ハシムルノ途ヲ拓クト共ニ之ガ輔佐ニ當ラシムル爲地方參事官ノ外新ニ地方副參事官ノ制ヲ設ケ且若干ノ判任官ヲ増員スル等ノ要アルニ依ル

大日本帝國政府

第二十八款 行政特例

● 戰時行政特例法

昭和十八年三月十八日
法律第七十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル戰時行政特例法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、內務、各大臣、副署)

戰時行政特例法

大東亞戰爭ニ際シ生産力擴充其ノ他綜合国力ノ擴充運用ノ爲特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル措置ヲ爲スコトヲ得
一 法律ニ依ル人又ハ法人ノ行爲ニ對スル禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコト
二 法律ニ依リ監督又ハ命令、處分其他ノ行爲ヲ爲ス甲ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ヲ乙ノ行政廳又ハ官吏シテ行ハシムルコト
前項第二號ノ場合ニ於テハ甲ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ニ係ル前項ノ適用ニ付テハ乙ノ行政廳又ハ官吏ハ之ヲ甲ノ行政廳又ハ官吏ト看做ス
前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年三月三十一日
勅令第二百四十二號

戰時行政特例法及許可認可等臨時措置法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スル

第三輯 官制 第一章 官制 第二十八款 行政特例

ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、內務、各大臣、副署)
戰時行政特例法及許可認可等臨時措置法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス

● 許可認可等臨時措置法

昭和十八年三月十八日
法律第七十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル許可認可等臨時措置法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、內務、各大臣、副署)

許可認可等臨時措置法

大東亞戰爭ニ際シ行政簡便化ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法律ニ依リ許可、認可、免許、特許、承認、檢査、監査、届出、報告等ヲ要スル事項ニ付左ニ掲グル措置ヲ爲スコトヲ得
一 許可、認可、免許、特許、承認、檢査、監査、届出、報告等ヲ要セザルコトトスルコト
二 許可、認可、免許、特許、承認、檢査、監査等ヲ要セズ届出、報告等ヲ以テ足ルモノトスルコト
三 許可、認可、免許、特許、承認、檢査等ノ申請アリ又ハ監査アリタルトキ一定期間ノ経過ニ依リ許可、認可、免許、特許、承認、檢査等アリ又ハ監査無キモノト看做スコト
四 甲法令ニ依リ許可、認可、免許、特許、承認、檢査、監査、届出、報告等アリタルトキ乙法令ニ依リ許可、認可、免許、特許、承認、檢査、

五四四ノ五

大日本帝國政府

效 (END)

第三編 官制 第一章 官制 第二十八款 行政特例

五 許可、認可、免許、特許、承認、授与等ヲ爲シ又ハ届出、報告等ヲ受

ケル甲ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ヲ乙ノ行政廳又ハ官吏ヲシテ行ハシムルコト

六 前各號ニ掲グルモノノ外手續又ハ處理ノ簡便化ノ爲メ必要ナル措置前項第五號ノ場合ニ於テハ甲ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ニ係ル範圍ノ適用ニ付テハ乙ノ行政廳又ハ官吏ハ之ヲ甲ノ行政廳又ハ官吏ト看做ス

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年三月三十一日

勅令第二百四十二號

戰時行政特例法及許可等臨時措置法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理國務)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●戰時行政職權特例

昭和十八年三月十八日

勅令第三百三十三號

改正 昭和十八年三月十九日
戰時行政職權特例法及許可等臨時措置法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理國務各)

(大田副署)

●地方參事官臨時設置制

昭和十八年七月一日

勅令第五百五十號

地方參事官臨時設置制ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、內務)

附則

地方參事官臨時設置制

第一條 地方行政協議會令及戰時行政職權特例第六條ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬セシメタル職權ノ行使ニ關シ當該地方長官ヲ助ケシムル爲メ地方參事官ヲ置ク

第二條 地方參事官ハ九人勤任トシ地方行政協議會ヲ附置セラレタル都府縣ニ各一人ヲ配置ス

地方參事官ハ當該地方長官ノ命ヲ承ケ前條ニ規定スル事務ヲ掌ル

地方參事官ノ官等ハ高等官二等トシ其ノ俸給ハ年俸一級五千三百五十圓、二級四千九百二十圓、三級四千六百五十圓トス

地方參事官ノ身分取扱ハ都府縣高等官ノ例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五四四ノ六

戰時行政職權特例

第一條 大東亞戰爭ニ際シ鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等運搬軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條 大東亞戰爭ニ際シ前條ノ物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ勞務、資材、動力及資金ニ關シ各省大臣ノ職權ノ一部ヲ命テ承ケ内閣總理大臣自ラ行ヒ又ハ他ノ各省大臣ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第三條 大東亞戰爭ニ際シ第一條ノ物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ前條ノ場合ヲ除ク外内閣總理大臣ハ勞務、資材、動力及資金ニ關シ一ノ行政官廳若ハ官吏ノ職權ヲ自ラ行ヒ又ハ他ノ行政官廳若ハ官吏ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第四條 前二條ノ場合ニ於テ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係行政官廳ノ職員ヲシテ臨時他ノ行政官廳ニ於テ職務シムルコトヲ得

第五條 第二條又ハ第三條ノ場合ニ於テハ一ノ行政官廳又ハ官吏ノ職權ニ係ル範圍ノ適用ニ付テハ其ノ職權ヲ行フ他ノ行政官廳又ハ官吏ハ之ヲ當該行政官廳又ハ官吏ト看做ス

第六條 地方行政協議會ヲ附置セラレタル都府縣ノ長官ハ關係地方ニ於ケル各級ノ行政ノ綜合連絡調整ニ任ジ必要アルトキハ廳府縣長官ノ所掌事項ニ關シテハ當該長官ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ地方行政協議會令第四條ニ規定スル其ノ他ノ官廳ノ長ノ所掌事項ニ關シテハ當該所管大臣ニ對シ其ノ官廳ノ長ニ必要ナル指示ヲ爲ス

第七條 都府縣長官ハ都府縣長官ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ク但シ廳府縣長官ニ對シテハ都府縣長官ハ内閣總理大臣ノ指揮監督政ニ關スル指揮監督ノ例ニ依ル

第七條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大日本帝國政府

● 地方行政協議會令

昭和十八年七月一日
勅令第五百四十八號
陸地方行政協議會令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

總理、陸軍、海軍、司法、海軍、通信、
務、農林、文部大臣附屬
(外)

地方行政協議會令

第一條 地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜合連絡調整ヲ圖ル爲メ北海道、東北地方、關東地方、東海地方、北陸地方、近畿地方、中國地方、四國地方及九州地方ニ地方行政協議會ヲ置ク
前項ノ地方區分並ニ協議會ノ名稱及之ヲ附置スベキ都廳府縣左ノ如シ

地方	區分	名稱	附置ノ都廳府縣
北海道	樺太 北海道	北海道地方行政協議會	北海道
東北地方	青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣	東北地方行政協議會	宮城縣
關東地方	埼玉縣 栃木縣 群馬縣 茨城縣 千葉縣 東京府 山梨縣 山梨縣	關東地方行政協議會	東京府
東海地方	岐阜縣 靜岡縣 愛知縣 三重縣	東海地方行政協議會	愛知縣
北陸地方	新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣 長野縣 山梨縣	北陸地方行政協議會	新潟縣
近畿地方	滋賀縣 京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 和歌山縣	近畿地方行政協議會	大阪府

第三編 官制 第一章 官制 第二十七條 廳府廳

中國地方	鳥取縣 島根縣 山口縣 岡山縣	中國地方行政協議會	廣島縣
四國地方	德島縣 高知縣 香川縣 愛媛縣	四國地方行政協議會	愛媛縣
九州地方	福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣 鹿兒島縣 大分縣 宮崎縣 沖繩縣	九州地方行政協議會	福岡縣

- 第二條 協議會ハ會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 會長ハ協議會ヲ附置セラレタル都廳府縣(以下當該都廳府縣ト稱ス)ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 當該地方ニ於ケル廳府廳長官
 - 二 當該地方ニ付管轄權ヲ有スル財務局長、稅關長、地方專賣局長、警林局長、礦山監督局長、地方燃料局長、通信局長、海務局長及鐵道局長
 - 三 當該地方ニ關係アル工務官事務所長、勞務官事務所長其ノ他ノ官衙ノ長ニシテ內閣總理大臣ノ指定スルモノ
- 第五條 會長ハ事業ノ性質ニ應ジ委員ノ一部ヲ以テ會議ヲ開クコトヲ得
- 第六條 委員亦故アルトキハ會長ノ承認ヲ受ケ部下ノ官吏ヲ其ノ代理者トシテ會議ニ參與セシムルコトヲ得
- 第七條 會長ハ內閣總理大臣ノ監督ノ下ニ於テ會議ヲ總理ス
- 第八條 會長ハ協議會ノ事務ニ關シ必要アルトキハ關係官衙ニ對シ資料ノ提出、説明其ノ他ノ共助ヲ求ムルコトヲ得
- 第九條 協議會ニ主幹ヲ置ク當該都廳府縣ニ設置セラレタル地方參事官ヲ以テ之ニ充ツ

大日本帝國政府

第三輯 官制 第一章 官制 第二十七款 府縣

主幹ハ會長ヲ輔佐シ會長亦故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十條 會長ハ須要ニ應ジ第四條ニ規定スル關係官衙ノ高等官ニ幹事ヲ委

嘱シ會長及主幹ノ指揮ヲ承ケ職務ヲ整理セシムルコトヲ得

第十一條 協議會ノ職務ハ當該都廳府縣之ヲ掌リ長官官房又ハ知事官房ノ

主管トス

第十二條 協議會ニ關スル事務ニ從事セシムル爲當該都廳府縣ニ臨時ニ屬

任二人ヲ增置ス

第十三條 本令ニ規定スルモノヲ除ク外協議會ノ議事規則其ノ他協議會

ニ關シ必要ナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五四二〇二

●市町村立小學校教員恩給審査規程

大正十年四月十六日
勅令第九號

（大田政務部）

市町村立小學校教員恩給審査規程

行政機構整備臨時職員令

第一條 今回ノ行政機構整備ノ勅令ニ因ル廢官ニ係ル官ニ當該勅令
 施行ノ際現ニ在官スル者ニ付テハ臨時其ノ官ヲ置カレタルモノト
 シ其ノ官等及俸給ハ従前ノ例ニ依ル但シ其ノ者ガ引續キ其ノ官ニ
 在官スル間ニ限ル

前項ノ者ハ休職者其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル者ヲ除クノ外待
 命トス

第一項ノ者ニ對シ本局長官ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テハ其ノ
 職務ハ内閣總理大臣ノ指定スル者之ヲ行フ

第二條 今回ノ行政機構整備ノ勅令ニ因リ過員ヲ生ジタル官ニ付テハ其ノ過員ニ係ル員數ヲ限り當該官ノ定員外ト爲スコトヲ得
前項ノ官ニ在職スル者ニ付テハ本局長官ハ必要ニ依リ過員ニ係ル員數ノ範圍内ニ於テ之ニ待命ヲ命ズルコトヲ得

第三條 前二條ノ規定ニ依ル待命者ハ其ノ本官ヲ奉ジテ職務ニ從事セズ其ノ他職ヲ在職官吏ト異ルコトナシ但シ第四條ノ規定ニ依リ臨時ニ職務ニ從事セシラレタル場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

第四條 本局長官又ハ第一條第三項ノ規定ニ依リ本局長官ノ職務ヲ行フ者必要アリト認ムルトキハ同條第一項ノ者ヲシテ其ノ命ズル所ニ從ヒ職務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ職務ガ

他職ニ屬スルモノナルトキハ豫メ他廳長官トノ協議ニ依ルモノトス

第一條第一項ノ者前項ノ規定ニ依リ他廳ノ職務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ職務ノ執行ニ關シ他廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ

第五條 本令ハ判事、檢察其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル官ニハ之ヲ適用セズ

第六條 本令ハ待遇官吏ニ之ヲ準用ス

第七條 特ニ必要アルトキハ今回ノ行政機構整備ノ勅令施行ノ際ニ限り當該勅令ニ定ムル定員ニ拘ラズ一ノ當該關係應ヨリ他ノ當該

關係ニ其ノ職員ヲ轉任セシムルコトヲ得但シ文官任用ノ資格ニ
關スル規定ノ適用ヲ妨グズ

前項ノ場合ニ於テ其ノ者ガ休職中ノ者ナルトキハ休職ノ儘轉任ス
ルモノトス

第一項ノ規定ハ同項ノ規定ニ依リ轉任シタル者ニ對スル第二條乃
至前條ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第八條 本令ノ適用ニ付テハ農商省官制、軍需省官制及運輸通信省
官制竝ニ之ニ伴フ勅令ハ之ヲ今回ノ行政機構整備ノ勅令ト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ昭和十九年三月三十一日迄其ノ效力
ヲ有ス

昭和八年十月十九日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

逓信大臣

岸國務大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

大藏國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

農林國務大臣

行政機構整備臨時職員令起草上申
不依于別紙、通閣議決定セラレ可然ト

平

海

興

五

五

五

五

五

五

五

五

五



認

迄テ本件ハ樞密院官制第六條第九號
ノ勅令ナルヲ以テ樞密院ニ御諮詢相成
可然ト認ム

勅令 素

別紙ノ通

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ行政機構整備臨時職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御 名 御 璽

年 月 日

内閣總理大臣

勅令第 行政機構整備臨時職員令
第一條 今國ノ行政機構整備ノ勅令ニ因ル職官ニ係ル官ニ當該勅令
施行ノ際現ニ在官スル者ニ付テハ臨時其ノ官ヲ置カレタルモノト
シ其ノ官等及俸給ハ從前ノ例ニ依ル但シ其ノ者ガ引續キ其ノ官ニ
在官スル間ニ限ル
前項ノ者ハ休職者其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル者ヲ除クノ外待

命トス

第一項ノ者ニ對シ本廳長官ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テハ其ノ職務ハ内閣總理大臣ノ指定スル者之ヲ行フ

第二條 今回ノ行政機構^{改定}準備ノ勅令ニ因リ過員ヲ生ジタル官ニ付テハ其ノ過員ニ係ル員數ヲ限り當該官ノ定員外ト爲スコトヲ得

前項ノ官ニ在職スル者ニ付テハ本廳長官ハ必要ニ依リ過員ニ係ル員數ノ範圍内ニ於テ之ニ待命ヲ命ズルコトヲ得

第三條 前二條ノ規定ニ依ル待命者ハ其ノ本官ヲ奉ジテ職務ニ從事セズ其ノ他廳ニ在職官吏ト異ルコトナシ但シ第四條ノ規定ニ依リ臨時ニ職務ニ從事セシメラレタル場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規

定ヲ適用ス

第四條 本廳長官又ハ第一條第三項ノ規定ニ依リ本廳長官ノ職務ヲ行フ者必要アリト認ムルトキハ同條第一項ノ者ヲシテ其ノ命ズル所ニ從ヒ職務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ職務ガ他廳ニ屬スルモノナルトキハ彼ノ他廳長官トノ協議ニ依ルモノトス

第一條第一項ノ者前項ノ規定ニ依リ他廳ノ職務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ職務ノ執行ニ關シ他廳長官ノ指揮監督ヲ承ク

第五條 本令ハ判事、檢察其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル官ニハ之ヲ適用セズ

第六條 本令ハ待選官吏ニ之ヲ準用ス

第七條 轉ニ必要アルトキハ今回ノ行政機構整備令施行ノ際ニ
リ當該勅令ニ定ムル定員ニ拘ラズ當該勅令ニ定ムル定員ニ拘ラズ
ニ其ノ職員ヲ轉任セシムルコトヲ得但シ文官任用ノ資格ニ關スル
規定ノ適用ヲ妨グズ

前項ノ場合ニ於テ其ノ者ガ休職中ノ者ナルトキハ休職ノ儘轉任ス
ルモノトス

第一項ノ規定ハ同項ノ規定ニ依リ轉任シタル者ニ對スル第二條乃
至第八條ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第八條 本令ノ適用ニ付テハ農商省官制、軍需省官制及運輸通信省官
制並ニ之ニ伴フ勅令ハ之ヲ今回ノ行政機構整備令ノ勅令ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ昭和十九年三月三十一日迄其ノ效力
ヲ有ス

理由

今回ノ行政機構整備ノ勅令ノ施行ニ伴ヒ廢官ト爲リ又ハ職員ヲ生ズベキ官ニ在ル職員ノ身分、服務等ニ關シ臨時特別ノ取扱ヲ爲スノ要アルニ依ル

内

閣

内

閣

行政機構整備臨時職員令
右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此段
及通牒候也

昭和十八年十月三十一日

樞密院議長原嘉道

內閣總理大臣東條英機殿

臣等行政機構整備臨時職員令
諮詢ノ命ヲ恪ニ本月三十一日ヲ以テ審議ヲ
盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月三十一日

樞密院議長 臣原嘉道

勅令第

行政機構整備臨時職員令

第一條 今四ノ行政機構整備ノ勅令ニ因ル廢官ニ係ル官ニ當該勅令
施行ノ際現ニ在官スル者ニ付テハ臨時其ノ官ヲ置カレタルモノト
シ其ノ官等及俸給ハ從前ノ例ニ依ル但シ其ノ者ガ引續キ其ノ官ニ
在官スル間ニ限ル
前項ノ者ハ休職者其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル者ヲ除クノ外特
命トス
第一項ノ者ニ對シ本屬長官ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テハ其ノ
職務ハ内閣總理大臣ノ指定スル者之ヲ行フ

第二條 今因ノ行政機構整備ノ勅令ニ因リ職員ヲ生ジタル官ニ付テハ其ノ職員ニ係ル員數ヲ限リ當該官ノ定員外ト爲スコトヲ得

前項ノ官ニ在職スル者ニ付テハ本局長官ハ必要ニ依リ職員ニ係ル員數ノ範圍内ニ於テ之ニ待命ヲ命ズルコトヲ得

第三條 前二條ノ規定ニ依ル待命者ハ其ノ本官ヲ奉ジテ職務ニ從事セズ其ノ他總テ在職官吏ト具ルコトナシ但シ第四條ノ規定ニ依リ臨時ニ職務ニ從事ヤシラレタル場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

第四條 本局長官又ハ第一條第三項ノ規定ニ依リ本局長官ノ職務ヲ行フ者必要アリト認ムルトキハ同條第一項ノ者ヲシテ其ノ命ズル所ニ從ヒ職務ニ從事ヤシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ職務ガ他廳ニ屬スルモノナルトキハ該ノ他廳長官トノ協議ニ依ルモノトス

第一條第一項ノ者前項ノ規定ニ依リ他廳ノ職務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ職務ノ執行ニ關シ他廳長官ノ指揮監督ヲ承ク

第五條 本令ハ判事、檢察其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル官ニハ之ヲ適用セズ

第六條 本令ハ待遇官吏ニ之ヲ準用ス

第七條 轉ニ必要アルトキハ今因ノ行政機構整備ノ勅令施行ノ際ニ限リ當該勅令ニ定ムル定員ニ拘ラズ一ノ當該關係廳ヨリ他ノ當該

關係ニ其ノ職員ヲ轉任セシムルコトヲ得但シ文官任用ノ資格ニ
關スル規定ノ適用ヲ妨グズ

前項ノ場合ニ於テ其ノ者ガ休職中ノ者ナルトキハ休職ノ儘轉任ス
ルモノトス

第一項ノ規定ハ同項ノ規定ニ依リ轉任シタル者ニ對スル第二條乃
至前條ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第八條 本令ノ適用ニ付テハ農商省官制、軍需省官制及運輸通信省
官制並ニ之ニ伴フ勅令ハ之ヲ今同ノ行政機構整備ノ勅令ト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ昭和十九年三月三十一日迄其ノ效力
ヲ及ブス

閣第 四一三號

案 起

昭和十八年十月三十日

裁可 昭和 年 月 日 施行
決定 昭和 年 月 日 行

昭和十八年十一月一日

五布

内閣總理大臣



内閣書記官長



内閣書記官

行政機構整備臨時職員令第一條第二項
第三項及第五條ノ規定ニ依ル内閣總理大
臣ノ指定ニ關スル告示案左ノ通決定相
成然ルヘシ

告示案

二 昭和十八年勅令第三百三十九號（大東亞戰事ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル文官等ノ補缺及復歸ニ關スル件）（第二項ノ規定ヲ除ク）ノ適用ヲ受クル文官

第二條 行政機構整備臨時職員令第一條第三項ノ規定ニ依ル指定左ノ如シ

- 一 農林部内職員ニ付テハ農商大臣
 - 二 商工部内職員ニ付テハ軍需大臣
 - 三 逓信及鐵道部内ノ職員ニ付テハ逓信通信大臣
- 第三條 行政機構整備臨時職員令第五條ノ規定ニ依ル指定左ノ如シ
- 一 農林、商工、逓信及鐵道各大臣
 - 二 裁判所書記

行政機構整備臨時職員令（抄）

第一條 今回、行政機構整備ノ勅令ニ因リ、齊官ニ存スル官ニ當テ、勅令施行ノ際、現ニ在官スル者ニ付テハ、臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトシ、其ノ官等及俸給ハ従前ノ例ニ依リ、但シ其ノ者ガ引續キ、其ノ官ニ在官スル間ニ限ル

前項ノ者ハ、休職者其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル者ヲ除キ、外特命トス

第一項ノ者ニ對シ、本屬長官ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テハ、其ノ職務ハ内閣總理大臣ノ指定スル者之ヲ行フ

第五條 本令ハ、列事、檢事其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル官ニハ之ヲ適用セズ

昭和十八年三月 日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

魚

海軍大臣

八

商工大臣

五

大東亞大臣

表

内務大臣

卷

司法大臣

五

遞信大臣

五

鈴木國務大臣

印

大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

安藤國務大臣

五

陸軍大臣

印

農林大臣

五

厚生大臣

五

行政查察規程起草上申入依テ別紙ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

附甲第三五四號

起案

昭和十八年十月十一日

閣議
決定
昭和十八年十月十一日
閣議
決定
昭和十八年十月十一日
閣議
決定
昭和十八年十月十一日
閣議
決定
昭和十八年十月十一日

昭
和
十
八
年
十
月
十
一
日

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

內務大臣

司法大臣

逓信大臣

岸

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

大

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

後

各省官制通則中改正件

右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付ニ付同院上奏
ノ通裁可ヲ奏請セラレ然ルベシト認ム

上諭案

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ各省官制通

則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

各省大臣

(樞密院上奏ノ通)

内閣

右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付ニ付兩院上奏

ノ通裁可ヲ奏請セラレ然ルベシト認ム

諭案

各省官制通則中改正ノ件

ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

年月日

内閣總理大臣

(附署閣上奏ノ儀) 各首大臣

濟

臣等各省官制通則中改正ノ件諮詢ノ命ヲ
恪ニ本月三十一日ヲ以テ審議ヲ盡シ之ヲ可
決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年十月三十一日

樞密院議長 臣 原 嘉道

各省官制通則中左ノ通改正ス

第一條中「農林、商工、通信、鐵道、」ヲ削リ「及大東亞」ヲ「大東亞、農商、軍需及運輸通信」ニ改ム

第十條第三項中「各局」ヲ「各總局若クハ局」ニ改ム

第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク但シ軍需省及運輸通信省ニ於テハ局ノ外總局ヲ置ク

各總局及各局ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ拘ラス局中局務ヲ分掌スル爲部又ハ部及課ヲ置クコトヲ得

前項ノ部並部及課ニ關シ必要ナル事項ハ各省官制ノ定ムル所ニ依
ル

第一項ノ部ニハ各省大臣ノ定ムル所ニ依リ（陸軍省及海軍省ニ在
リテハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依リ）課ヲ置クコトヲ得

第十三條ノ三 軍需省及運輸通信省ニ於テハ各其ノ省官制ノ定ムル
所ニ依リ總局ニ長官官房及局ヲ置ク其ノ分掌事務及分課ハ其ノ省
大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十四條但書ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

軍需省及運輸通信省ニハ前項職員ノ外各總局ニ總局長官ヲ、總局

各局長官ヲ、各局長官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務

ヲ掌理シ並總局中長官官房及各局ノ事務ヲ指揮監督ス

第十八條中「各課」ヲ「各部課」ニ改ム

第十九條 總局各局長ハ一人勅任トス上官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌
理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十條 各部ニ部長一人ヲ置ク勅任又ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ
部務ヲ掌理ス

部長ハ前項ノ規定ニ拘ラス各省官制ノ定ムル所ニ依リ高等官ヲ以
テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十一條中「各局課」ヲ「各局部」ニ改ム

第二十二條中「各局」ヲ「各總局若クハ各局」ニ改ム

第二十四條中「及局中各課」ヲ「竝總局及局中各課」ニ改ム

第二十七條第二項中「書記官」ノ上ニ「部長、」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

了

出

目下樞密院ニ御諮詢中ノ各省官制通則中
改正ノ件中別紙ノ通訂正ノ儀左案ヲ以テ侍從
長ヲ經相伺然ハキ哉

同案

目下樞密院ニ御諮詢中ノ各省官制通則中
改正ノ件中別紙ノ通訂正致度

(別紙)

第十三條ノ三中「其ノ分掌事務及分課」ノ分課ハ「
」其ノ分掌事務及分課ハ「訂正」

昭和十八年 十月十八日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

逓信大臣

岸國務大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

大森國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

後藤國務大臣

各省官制通則中改正ノ件起案
上申ス依テ別紙ノ通閣議決定セ

法制局

ラレ可然ト認ム

追テ本件ハ樞密院官制第六條
第九號ノ勅令ナルヲ以テ樞密院
ニ御諮詢相成可然ト認ム

勅令案

別紙ノ通

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ各省官制通則中改正ノ件ヲ朕可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

各省 大臣

勅令第 號

各省官制通則中左ノ編改正ス

第一條中「農林、商工、通信、鐵道、」ヲ削リ「及大東亞」ヲ「、大
東亞、農商、軍需及運輸通信」ニ改ム

第十條第五項中「各局」ヲ「各總局若クハ局」ニ改ム

第十二條 各省中官務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク但シ軍需省及運輸通信省ニ於テハ局ノ外總局ヲ置ク

各總局及各局ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ拘ラス局中局務ヲ分掌スル爲部又ハ部及

課ヲ置クコトヲ得

前項ノ部及課ニ關シ必要ナル事項ハ各省官制ノ定ムル所ニ依ル

第一項ノ部ニハ各省大臣ノ定ムル所ニ依リ(陸軍省及海軍省ニ在リテハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依リ)課ヲ置クコトヲ得

第十三條ノ三 軍需省及運輸通信省ニ於テハ各其ノ省官制ノ定ムル所

ニ依リ總局ニ長官官房及局ヲ置ク其ノ分掌事務及、分課ハ其ノ省

大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十四條但書ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

軍需省及運輸通信省ニハ前項職員ノ外各總局ニ總局長官ヲ、總局各局ニ局長ヲ置ク

第十七條ノ二 各總局長官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ

掌理シ並總局中長官官房及各局ノ事務ヲ指揮監督ス

第十八條中「各課」ヲ「各部課」ニ改ム

第十九條 總局各局長ハ一人勅任トス上官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理

レ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十條 各部ニ部長一人ヲ置ク。前任又ハ委任トス。上官ノ命ヲ承ケ部
務ヲ掌理ス

部長ハ前項ノ規定ニ拘ラス。各省官制ノ定ムル所ニ依リ高等官ヲ以テ
之ニ充ツルコトヲ得

第二十一條中「各局課」ヲ「各局部」ニ改ム

第二十二條中「各局」ヲ「各總局若クハ各局」ニ改ム

第二十三條中「及局中各課」ヲ「及總局及局中各課」ニ改ム

第二十七條第二項中「省廳官」ノ上ニ「部長、」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由

農商務、軍需省、運輸通商省設置及農林省、商工省、通商省、鐵道省
の廢止ニ伴ヒ並ニ局中事務ヲ分掌スル爲メ部又ハ部及課ヲ設ケルコトヲ
得ルノ途ヲ拓ク等ノ爲メ改正ノ要アルニ依ル

大日本帝國政府

參照

各省官制通則

大日本帝國政府

第三十一條 國務官ハ委任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密ヲ守リ又ハ臨時命
ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ司ル
第三十二條 國務官ハ委任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ
各局ノ事務ヲ掌ル
第三十三條 各省專任秘書官ハ一人トス
第三十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充テ
課長ハ各課ノ上官ニ承ケ課務ヲ掌ル
第三十五條 各省專任秘書中ノ課長ハ各其ノ官官制ノ定ムル所ニ依ル
第三十六條 國務官ハ委任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
第三十七條 本則ニ補タルモノ、外件者特別ノ職員ヲ置テコトヲ掌ルモノ
ハ各省官制ニ據テ之ヲ定ム
第三十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

大日本帝國憲法

第一章 官制 第廿九條 國務官ハ委任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密ヲ守リ又ハ臨時命
ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ司ル
第三十條 國務官ハ委任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ
各局ノ事務ヲ掌ル
第三十一條 各省專任秘書官ハ一人トス
第三十二條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充テ
課長ハ各課ノ上官ニ承ケ課務ヲ掌ル
第三十三條 各省專任秘書中ノ課長ハ各其ノ官官制ノ定ムル所ニ依ル
第三十四條 國務官ハ委任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
第三十五條 本則ニ補タルモノ、外件者特別ノ職員ヲ置テコトヲ掌ルモノ
ハ各省官制ニ據テ之ヲ定ム
第三十六條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第三十一條 國務官ハ委任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密ヲ守リ又ハ臨時命
ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ司ル
第三十二條 國務官ハ委任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ
各局ノ事務ヲ掌ル
第三十三條 各省專任秘書官ハ一人トス
第三十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充テ
課長ハ各課ノ上官ニ承ケ課務ヲ掌ル
第三十五條 各省專任秘書中ノ課長ハ各其ノ官官制ノ定ムル所ニ依ル
第三十六條 國務官ハ委任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
第三十七條 本則ニ補タルモノ、外件者特別ノ職員ヲ置テコトヲ掌ルモノ
ハ各省官制ニ據テ之ヲ定ム
第三十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

各省官制通則中改正ノ件
右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此段
及通牒候也

昭和十八年十月三十一日

樞密院議長原嘉道

內閣總理大臣東條英機殿

臣等 各省官制通則中改正ノ件

諮詢ノ命ヲ恪ニ本月三十一日ヲ以テ審議ヲ
盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰シ

昭和十八年十月三十一日

樞密院議長 原嘉道

各省官制通則中左ノ通改正ス

第一條中「農林、商工、逓信、鐵道、」ヲ削リ「及大東亞」ヲ、
大東亞、農商、軍需及運輸通信」ニ改ム

第十條第三項中「各局」ヲ「各總局若クハ局」ニ改ム

第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク但シ軍需省及運輸通信
省ニ於テハ局ノ外總局ヲ置ク

各總局及各局ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ拘ラス局中局務ヲ分掌スル爲部又ハ部
及課ヲ置クコトヲ得

前項ノ部並部及課ニ關シ必要ナル事項ハ各省官制ノ定ムル所ニ依
ル

第一項ノ部ニハ各省大臣ノ定ムル所ニ依リ（陸軍省及海軍省ニ在
リテハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依リ）課ヲ置クコトヲ得

第十三條ノ三 軍需省及運輸通信省ニ於テハ各其ノ省官制ノ定ムル
所ニ依リ總局ニ長官官房及局ヲ置ク其ノ分掌事務及分課ハ其ノ省
大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十四條但書ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

軍需省及運輸通信省ニハ前項職員ノ外各總局ニ總局長官ヲ、總局

各局ニ局長ヲ置ク

第十七條ノ二 各總局長官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務

ヲ掌理シ並總局中長官官房及各局ノ事務ヲ指揮監督ス

第十八條中「各課」ヲ「各部課」ニ改ム

第十九條 總局各局長ハ一人勅任トス上官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌
理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十條 各部ニ部長一人ヲ置ク勅任又ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ
部務ヲ掌理ス

部長ハ前項ノ規定ニ拘ラス各省官制ノ定ムル所ニ依リ高等官ヲ以
テ之ニ充フルコトヲ得

第二十一條中「各局課」ヲ「各局部」ニ改ム

第二十二條中「各局」ヲ「各總局若クハ各局」ニ改ム
 第二十四條中「及局中各課」ヲ「並總局及局中各課」ニ改ム
 第二十七條第二項中「書記官」ノ上ニ「部長、」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年六月三日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

遞信大臣

陸軍大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

陸軍大臣

内閣委員及各省委員ノ職務繼續ニ
 關スル件

通信省ヲ除クノ機構ノ整理ニ關スル件

右閣議ニ供ス

通牒案

年月日

内閣書記官長

法制局長官

企畫院總裁

情報局長

大藏大臣

宛(右通)

内閣及各省(軍需省、農商省、運輸通信省ヲ除ク)、機構ノ整理ニ關スル件

標記、件本日別紙ノ通閣議決定相成候條命ニ依リ通牒ニ及ビ候

年 月 日

内閣書記官長

- 外務大臣
- 内務大臣
- 司法大臣
- 文部大臣
- 學事大臣

宛(各通)

大東亞大臣

内閣及各省(軍需省、農商省、運輸通信省)ノ除ク、機構ノ整理ニ関スル件

標記、件本日閣議決定相成候要領有關係ノ事項別紙ノ通ニ之有命ニ依リ通牒ニ及ビ候

年 月 日

内閣

内閣書記官長

（兼通）

技術院總裁

統計局長

特許局長友

内閣及各省（軍省、農商省、運輸通信

省）除々、一、構構、整理、閉、件

標記、件本日閣議決定相成候處、内閣

院（兼）内係、事項別紙、通、之有命

ニ依リ通牒ニ及、候

年月日

内閣官房總務課長

内閣東北局長

内閣印刷局長

（兼通）

總力戰研究所長

兼三二同

内閣及各省（軍需省、農商省、運輸通信省を除く）
ノ機構ノ整理ニ關スル件

内閣

- 一、内閣東北局ヲ廢止シ東北興業株式會社ノ監督事務ハ東北地方行政協議會長ニ委譲シ之ニ對スル監督ハ内閣總理大臣之ヲ行フコト
- 二、内閣印刷局ハ大藏省ヘ移管スルコト但シ官報及法令全書ノ發行ハ内閣トシ、内閣所管機密文書印刷ニ關スル事務ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ受ケシムルコト
- 三、軍需省ノ設置ニ伴ヒ企畫院ハ之ヲ廢止シ國政ノ綜合運営ニ關スル事項ヲ内閣ニ於テ所掌スル爲簡素協力ナル組織ヲ内閣ニ設クルコト
- 四、情報局ハ一部ヲ廢シ、官房ニ新ニ戰時資料室ヲ設クルコト

- 五 技術院へ特許局ヲ統合スルコト
- 六 線力戦研究所へ之ヲ停止スルコト
- 七 統計局へ内閣ニ存置スルコト

於
○

外務省

通商局ヲ廢止シ新タニ戰時經濟局ヲ設置シ極力・國家化スルコト

内務省

一、 神社院ノ旨制ヲ廢止スルコト

二、 防空線本部

(假稱)

ヲ設置スルコト

三、 警察講習所

ヲ一時停止シ新ニ戦時ニ適應セル強力ナル訓練ヲ實

施スルコト

四、 土木出張所ニ付テハ地方行政協議會トノ關係ヲ考慮シ所要ノ措

置ヲ講ズルコト

總務局、警防局、他局の業務の停止
但し、その必要に於ては、
警察講習所を一時停止する
が旨である。

但し、その必要に於ては、
警察講習所を一時停止する
が旨である。

一 釐金管庫局、税金及運送局ヲ廢止スルコト

二 釐金管庫局ヲ九局トシ内稅ノ徵收ヲ充實スルコト

三 釐金管庫局ヲ廢止スルコト

四 運送局出張所、一部ヲ廢止スルコト

五 内閣印刷局ヲ大阪省ニ移管スルコト

官報其他内閣所管秘密文書ニ付テハ内閣總理大臣之ヲ指揮監督スルコト

六 東京ニ於ケル稅務講習所ハ、一時停止シ、新タニ戰時ニ適應セル能力ナル訓練ヲ實施スルコト

七 稅關ハ之ヲ廢止シ、其ノ事務ハ之ヲ運輸通信省ノ地方部局ニ移スコト

司 法 省

- 一、 行刑局及保釈局ノ二局ヲ統合シテ刑改局（仮稱）トスルコト
- 二、 司法研究所ハ一時停止シ新タニ取替ニ適應セル強力ナル訓練ヲ
實施スルコト

文 部 省

- 一 圖書局ト國民教育局トヲ統合スルコト
- 二 敎化局ト敎學局トヲ統合スルコト
- 三 國民精神文化研究所ト國民鍊成所トヲ統合スルコト

厚生省

スレフ。

- 一 生活局及人口局ヲ統合シテ國民局トスルコト
- 二 衛生局ニ勤務衛生ニ關スル事務ヲ移管スルコト
- 三 軍醫保護院ノ總務官房及二局ヲ廢止スルコト

三、発表済みの軍事保護院ノ撤廃ヲ簡素化スルコトノ趣旨ニテハ、
 都立本館下リ

大英亞省

- 一 西工省ヨリ交易局ヲ移管スルコト
- 二 英南境或院ト與西境或所トヲ統合スルコト
- 三 海外移住教養所ヲ廢止スルコト
- 四 外地税關ヲ極力簡素化スルコト
- 五 南洋羣本廳ヲ簡素化シ支廳ヲ統合強化スルコト



行政機構整備實施ニ伴フ戰時行政職權特例第二條
ノ規定ニ依ル内閣告示中改正ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年十月三十一日

内閣總理大臣東條英機

閣中第三九二號

起案 昭和十八年十月五日 決定昭和十八年十月五日 施行 昭十八年十一月一日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

別紙行政機構整備實施ニ伴ノ戰時行政職權特例第二條ノ規定ニ依ル内閣告示中改正ノ件裁可ヲ奏請セラレ然ルベシ

追テ本件御裁可ノ上ハ別紙内閣告示

Large empty table with vertical lines, likely for administrative tracking or content.

職權

職權

●内閣告示第十二號

戰時行政機關特例第二條ノ規定ニ依リ左ニ掲グル職權ヲ海軍大臣ヲシテ行ハシム

昭和十八年六月九日

内閣總理大臣 東 條 英 機

一 昭和十八年勅令第三百六十六號ノ甲造船修繕工場ノ築造ニシテ海軍大臣ノ命令又ハ海軍造廠令部長若ハ造船院長官ノ指示ニ依リ行フモノニ關スル昭和十八年敕工管令第十七號工作物築造統制規則中左ノ各號ノ附工大臣ノ職權(四)乃至(六)ニ係ル事項ニシテ

●内閣告示第十二號

戦時行政職權特例第二條ノ規定ニ依リ左ニ括グル職權ヲ海軍大臣ヲシテ行ハシム

昭和十八年六月九日

内閣總理大臣 東 條 英 機

- 一 昭和十八年勅令第三百六十六號ノ甲造船機務工場ノ築造ニシテ海軍大臣ノ命令又ハ海軍造廠本部長若ハ造船局長官ノ指示ニ依リ行フモノニ關スル昭和十八年商工省令第十七號工作物築造統制規

則

本告示實施ノ際現ニ商工大臣ニ對スル手續中ノモノニ關スル機密ヲ除ク

(イ) 第二條第二號(緊要工作物トシテノ指定取消ヲ除ク)

(ロ) 第四條

(ハ) 第五條第一項及第二項

(ニ) 第六條

(ホ) 第七條

(ヘ) 第八條

(ニ) 第九條但書

初 第十條

二 昭和十八年内閣告示第十三號ノ措置ニ依リ海軍大臣ノ指定スル
官吏ノ行フ職權ニ對スル指揮監督ノ商工大臣ノ職權

◎内閣告示第十八號

戰時行政職權特例第二條ノ規定ニ依リ船員職業紹介ニ關スル逓信大臣
ノ職權ヲ厚生大臣ヲシテ行ハシム

昭和十八年九月十六日

内閣總理大臣 東條 英機

◎内閣告示集

號

行政機關整備實施ニ伴フ戰時行政機關特例第二條ノ規定ニ依リ内閣告示中改正ノ件左ノ如定ム

昭和十八年十一月一日

内閣總理大臣 東 條 英 機

- 一 昭和十八年六月九日内閣告示第十二號中左ノ如改正ス
「海防院長官」→「運輸通信省海運總局長官」ニ、「商工大臣」→「軍需大臣」ニ改ム
- 二 昭和十八年九月十六日内閣告示第十八號中左ノ如改正ス
「通信大臣」→「運輸通信大臣」ニ改ム

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ戰時行政職權特例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

御名 御璽

昭和十八年三月十七日

海軍大臣	鳴田	繁太郎
司法大臣	岩村	通世
厚生大臣	小泉	親彦
農林大臣	井野	碩哉
國務大臣	鈴木	貞一
文部大臣	橋田	邦彦
陸軍大臣	東條	英機
内閣總理大臣兼		

勅令第三百三十三號

戰時行政機構特例

第一條 大東亞戰爭ニ際シ鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等重

逓信大臣	寺島健
大藏大臣	賀屋興直
商工大臣	岸信介
鐵道大臣	八田嘉明
內務大臣	湯澤三千男
國務大臣	安藤紀三郎
外務大臣	谷正之
大東亞大臣	青木一男

要軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係

各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

○第二條 大東亞戰爭ニ際シ前條ノ物資ノ生産擴充上特ニ必要アルト

キハ勞務、資材、動力及資金ニ關スル各省大臣ノ職權ノ一部ヲ命

ヲ承ケ内閣總理大臣自ラ行ヒ又ハ他ノ各省大臣ヲシテ行ハシムル

コトヲ得

第三條 大東亞戰爭ニ際シ第一條ノ物資ノ生産擴充上特ニ必要アル

トキハ前條ノ場合ヲ除クノ外内閣總理大臣ハ勞務、資材、動力及

資金ニ關スル一ノ行政官廳若ハ官吏ノ職權ヲ自ラ行ヒ又ハ他ノ行

政官廳若ハ官吏ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第四條 前二條ノ場合ニ於テ必要アルトキハ内閣總理大臣ハ關係行

政官廳ノ職員ヲシテ臨時他ノ行政官廳ニ於テ執務セシムルコトヲ得

第五條 第二條又ハ第三條ノ場合ニ於テハ一ノ行政官廳又ハ官吏ノ職權ニ係ル範圍ノ適用ニ付テハ其ノ職權ヲ行フ他ノ行政官廳又ハ官吏ハ之ヲ當該行政官廳又ハ官吏ト看做ス

第六條 地方行政協議會ヲ附置セラレタル都廳府縣ノ長官ハ關係地方ニ於ケル各般ノ行政ノ綜合連絡調整ニ任ジ必要アルトキハ廳府縣長官ノ所掌事項ニ關シテハ當該長官ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ地方行政協議會令第四條ニ規定スル其ノ他ノ官衙ノ長ノ所掌事項ニ關シテハ當該所管大臣ニ對シ其ノ官衙ノ長ニ必要ナル指示ヲ爲スベキコトヲ求ムルコトヲ得

前項ニ規定スル職權ニ關シテハ都廳府縣長官ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ク但シ廳府縣長官ニ對スル指示ノ職權ニ關シテハ都廳府縣ノ一般行政ニ關スル指揮監督ノ例ニ依ル

第七條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス